

(1) 應徳寺調査



(写真1) 地蔵菩薩坐像  
早野 應徳寺所蔵

の像容は中国より請来された  
仏画を手本としたもので、鎌  
倉で創案されました。当像も  
十四世紀後半(南北朝時代)  
に宅間派と呼ばれる鎌倉の工  
房で制作されたと考えて間違

いありません。この  
頃、宅間派は鎌倉府  
の要人の造仏を一手  
に手掛けていまし  
た。当像とそっくり  
の地蔵さまが鎌倉西  
御門の来迎寺に所在

令和二年七月、市史編さん  
の調査のため、早野の禅寺應  
徳寺(臨済宗妙心寺派)を訪  
問しました。同寺は南北朝時  
代、鎌倉建長寺五世を務めた  
東岳文晷(仏地禅師)の開祖  
と伝えられる由緒ある寺院  
で、阿弥陀如来坐像、葉師如  
来坐像、達磨大師像等の貴重  
な仏像が所在します。その中  
でも、当地蔵菩薩坐像は、美  
しい横顔をもつ菩薩さまです  
(写真1)。

像高は五〇cmほど、寄木造、  
彩色仕上げ、玉眼嵌入。錫  
杖(亡失)と宝珠を執る地蔵  
菩薩の通形で、着衣を前・左  
右に垂らす姿に特徴がありま  
す。法衣垂下式と呼ばれるこ

しますが、永徳四年(一三八  
四)関東管領上杉能憲の供養  
のための造像、作者宅間法眼  
浄宏とする記録があります。  
また、鎌倉公方足利家の氏  
寺である鎌倉寛園寺の諸仏を  
宅間派が手掛けていますが、  
本尊・両脇侍も当像とよく似  
た法衣垂下式です。当像は江  
戸時代までは隣接する長南町  
の芝原に所在したとのこと。  
長南町東部の八坂郷・小蓋(小  
生田)郷には南北朝・室町時  
代に足利氏が寄進した寛園寺  
の所領がありました。その関  
係で、この目が覚めるほど美  
しい仏像が請来されたものと  
思います。

(2) 鷺山寺に伝わる

日蓮聖人坐像の調査

鷺巢の大寺鷺山寺に日蓮聖  
人の古像が伝わります(写真  
2)。

同寺は、中老僧日弁上人  
の開山、鎌倉時代より続く由  
緒ある寺院で、法華宗本門流  
の大本山です。

令和二年九月東京の工房で  
修復中の同像を詳しく調査さ  
せて頂きました。

日蓮聖人坐像は、大略等身  
の寄木造、下衣だけを着用す  
る姿で、この上に法衣を着付  
けるいわゆる「裸形着衣  
像」です。お顔や両手が江戸  
期のものに替わっているので  
すが、充分に量感を備えた体



(写真2) 日蓮聖人坐像  
鷺巢 鷺山寺所蔵

軀や強い脚部の造形は鎌倉時  
代末頃に遡る制作と思われる  
日蓮聖人像としては最古級の  
一体と言えます。

さて、当像の特徴はその用  
材にあります。通常仏像に使  
われるヒノキやカヤではな  
く、松材と思われる。松は  
節が多く脂もあり仏像には不  
向きです。その上、首の所に  
二つ木芯が見られます。つま  
り、二股に分かれていた木な  
のです。なぜ、わざわざこの  
ような癖のある材を用いたの  
でしょうか。

鷺山寺は『法華経』を教理  
の基とする「法華宗」の寺院  
ですが、法華経はお釈迦さま  
が霊鷲山(鷺の姿をした山)

で説いた教えです。そのこと  
から鷺は教えのシンボルとさ  
れます。想像をたくましくす  
ると、鷺はしばしば高い松木  
に巢を掛けますが、日蓮聖人  
ゆかりのお寺の裏山に鷺が巢  
を掛けた松木があり、その木  
を用いて宗祖のお像を作った  
のが当像なのではないか? 風  
変わりな寺名や地名もこのこ  
とに由来するのではと思える  
のです。

このように仏像は地域の歴  
史が刻まれた書物とも言うべ  
き存在です。一体一体大切に  
お調べして、その物語に耳を  
傾けてゆきたいと思えます。

茂原市史調査執筆委員

濱名 徳順

問合せ

美術館・郷土資料館

☎(26)2131 FAX(26)2132